

乗円寺 寺報



平成30年7月
お盆号
寺報から訊く
寺報No18

乗円寺からの お知らせ

7月13日(金)

～7月16日(月)

お寺を開放し、終日待機
しています。お墓・納骨堂の
お参りに、お越し下さい。
(8:00～20:00)

今年も乗円寺の蓮の花が大きく

育っています!!お盆の頃に
花が咲くことを祈っております!

この鉢にはメダカもいます。
可愛がって上げてください!



老僧の独り言

山桃(ヤマモモ)と桑苺(クワイチゴ)

山桃のシーズンです。山桃は北陸地方には馴染みの薄い木ですが、私の育った愛知県でも、特に東三河の比較的温暖な地方の海に近い山に、自生する常緑樹(じょうりよくじゅ)一年中緑の葉が見られる樹木)です。的地であれば結構大きく育ち六月から七月にかけて甘い大粒な実が熟し食べ頃です(愛知・静岡及び四国・九州の太平洋側に自生すると言われています)。



● 親から子へ伝える仏教・真宗

～ 天上天下唯我独尊 ～

●

今年に入って、自分が勉強している
カウンセリングの資格取得養成講座
で、ある方と出会いました。その方
は、森田真千子さん(六十二歳)。生
後十ヶ月で高熱による脳性マヒとな
り、両手が全く使えず、体幹マヒ・下
肢マヒがあります。養護学校時代の小
学部高学年頃から口で鉛筆を持って文
字を書き始め、さらに努力され絵を描
いている方です。現在は



言葉に重みがあり、勉
強に音を上げそうにな
っていった自分を反省
しました。
生きていく姿勢
大切なのは挑戦する姿勢
生きていく姿勢



自分と森田さんが受講している講座
は、二ヶ月に渡って授業を受け、国家
試験を受けます。勉強する本は七冊も
あり、覚えるのがとても難しく、自分
は音を上げそうになっていました。そ
んな時に会ったのが、森田さんで
す。車椅子に乗りながらその授業に参
加し、口に鉛筆を持ってメモを取られ
ていました。お話をする機会があり、
受講理由をお聞きすると、ご自身の活
動の中で、悩みを持つ若い方や、自死
を考える方々と接することがあり、そ
のような方々との関わりを、もっとよ
くするために受講しているとのこと。

生きてきた中で、た
くさんのご苦労があったと思います。
その苦労は私達には決して、想像出来
ないものです。もちろん、今までの人
生も凄いなと思うのですが、今を物凄く
大切にされている部分に、感銘を受
け、色紙にもある「生きていく姿勢」
がとても重いお言葉に感じました。唯
一無二の方だと思えます。

お盆中は、お寺に頂いた色紙と詩画
集の「縁」を飾ります。ご覧頂いて、
佛様と先祖にお参りしながら、普段な
かなか考えられないけど、シンプルで
大切なことにも、心を寄せながらお参
りいただければと思います。(住職)

活動の一環で、六月十五日に金沢に
来て、絵と共に自作の短歌を載せた色
紙の制作実演をされるのを拝見したの
ですが、絵も、言葉も、書くお姿も素
晴らしかった。その時に頂いた色紙に
書いてあった言葉です。
やめることはいつでも出来る
大切なのは挑戦する姿勢
生きていく姿勢

言葉に重みがあり、勉
強に音を上げそうにな
っていった自分を反省
しました。
生きていく姿勢
大切なのは挑戦する姿勢
生きていく姿勢

お盆中は、お寺に頂いた色紙と詩画
集の「縁」を飾ります。ご覧頂いて、
佛様と先祖にお参りしながら、普段な
かなか考えられないけど、シンプルで
大切なことにも、心を寄せながらお参
りいただければと思います。(住職)

はじめは子供の小指の頭ほどの青い小さな実がつき、そ
れが次第に大きくなるにつれて白くなり、ピンクになり、
赤くなり、最後に赤紫色になると完熟です。実がなるのは
木がだいぶ大きくなってからです。貪るようにして食べた
思い出があります。完熟した実の大きさはビー玉位あるの
ですが、種が大きくて食べれるのは実の廻りだけです。山
桃より少し早目に完熟して、子供達を喜ばせてくれたの
が、桑苺です。桑畠一面に残された切り株に、びっしりと
実った桑苺。これもなかなか甘く美味しいものでした。
昔、おやつなどがなく乏しかった時代でしたので、このよ
うな自然の恵みとも云うべき天然の果実が、子供達の唯一
の「おやつ」でした。

山桃の木は戦後、庭木として植樹されるようになり、金
沢でも処々にその木を見ることが出来ますが、気温の関係
で実は殆どなりません。桑苺は完熟すると紫色の色素を有
するようになり、下手に食べると口の廻りが紫色
に染まります。



桑苺はどちらかと云うと、一寸甘ったるい
感じの強い食べ物ですが、山桃はサツパリと
した甘みが特徴であり、大人の世界でも珍重
がられていたようでした。金沢でも料亭等
で出される料理の中で、大皿に盛られた他の食
材の片隅にポツンと一粒、鎮座している姿を
見ることもありますが、北陸では希少価値の
高い食材の一つと言えないでしょうか。

このような昔の些細な味覚に郷愁を覚えること自体、私
が歳を取ったせいかもしれません。今年三月一日に満九十
五歳になりました。逐日老衰の加速を自覚しつつ、生かさ
れていきます。何と有難いことでしょうか。お浄土へ還る日
が遠くないことは、百も承知のこの頃です。
それ迄にもう一度、山桃と桑苺を腹一杯食べてみたいと
思ったりしながら、この原稿を書いています。合掌